

令和6年度 第1回 米子市児童文化センター運営委員会 発言要旨

1 令和5年度事業報告について

(委員)

児童文化センターの収支状況について、支出の中で租税公課という項目があるが内容を教えてほしい。

(事務局)

主に消費税である。児童文化センター単独ではなく米子市文化財団が指定管理をしている他の施設との按分であり、見込で算出している。

(委員)

アンケートに新しい事業を望む意見があるため新規事業に取り組んでいくことはいいことだが、目的を持って事業に取り組み、終われば振り返りをして成果と課題を洗い出し次の事業に活かしてほしい。また、職員数は限られているため増やすだけでなく見直しも検討していく必要があるのではないか。

(事務局)

令和5年度は約30の新規事業を実施した。年々増加傾向ではあるが令和元年のコロナ前の実施数には届いていない。事業の質の担保や職員の資質の向上なども考慮しながら実施していきたい。

(委員)

令和6年度はどのような新規事業を実施する予定か。

(事務局)

例えば、天文クラブは再開させた事業である。昨年度に開館40周年を迎え、その記念事業として天文クラブに所属していたJAXAの生田千里さんという方に講演をしていただき、それを記念し再開した。

また、ハロウィンやクリスマス等の季節のイベント、コマ大会、卓球は利用者からの要望が多く新たに実施または再開した事業である。

(委員)

アンケートの内容を見ると、職員は非常に努力していることが伺える。その点は評価したい。一方で、施設の老朽化のことでの意見が多く見られる。今後はどのように改善していくのか。

(事務局)

施設は築40年を越えており、長寿命化にむけた改修の必要性を数年前から考えていたところではあるが、周囲の施設と連携を取っていく可能性も出てきており、現段階ではどのように老朽化を改善していくか決まっていない。予算のことや大きい事業であることからもしっかり検討していきたい。

(委員)

事業の中で、「昔あそびをしよう」とあるが、いつ頃の遊びであるか。指導者はいるのか。

(事務局)

けん玉、こま回し、お手玉、メンコ、ベーゴマや正月遊びとして羽根付きを行っている。

基本的には職員が指導しているが、けん玉については興味関心が多くあったことから、けん玉専門の方に指導していただいている。

(委員)

トイレの話が出ているが、工事の予定はあるのか。

(事務局)

来年度予算要求していく予定である。

(委員)

施設の利用予約や事業の参加申込をネット申請にできないのか。

(事務局)

現在、電子申請のフォームを開発依頼中である。ホームページとリンクしたものを導入できるように準備している。

(委員)

新規事業の実施に伴い、廃止する事業もあると聞いた。どのような事業を廃止したか教えてほしい。また、数年分の廃止した事業を資料に記載するのはどうか。

(事務局)

例えば、12月に実施していたそば打ち体験は先生が高齢になられたこともあり、引退したいというお話があったことをきっかけに見直すことになり、参加可能人数や料金等総合的に判断して廃止することとした。資料は検討していきたい。

(委員)

事業やイベントなど目的があって利用できることも重要であるが、特に目的がなくとも保護者が子どもと一緒に遊ぶことができる場所であることも大切にしてほしい。そのために子どもだけでなく保護者も満足できるように施設を充実させてほしい。

(事務局)

児童文化センターは保護者が子どもを連れてこないと楽しむことができない場合も多い。利用者全員が心地の良い施設であるように環境整備に努めたい。

2 令和5年度モニタリング結果について

(委員)

プラネタリウム番組は2ヶ月ごとに更新しているとのことだが、一つの番組にどのくらい予算をかけているのか。また、夏休みの臨時投影はあるのか。

(事務局)

1年間の放映権を購入する番組と、リニューアル時に購入した番組を組み合わせながら上映プログラムを作成している。予算については、番組の内容等により放映権料は差があるため一概には言えない。長期休暇中は1日の投影回数を1回増やしている。

3 その他

(事務局)

次回運営委員会は来年2月頃を予定している。

(委員)

児童文化センターは災害等が発生した場合、どのような使われ方をされるのか。

(事務局)

現状、避難施設として指定されていない。しかし湊山公園自体が緊急避難場所に指定されているため要請等があれば避難場所として使用される可能性もある。

(委員)

米子城に関する事業を実施してもらいたい。先日参加した米子城の講座で米子城は全国でも稀なお城であることを初めて知ることができ、素晴らしい歴史がある米子城を子どもたちにももっと広めていきたいと感じた。また、米子城を通じて歴史や文化の興味につながるのではないかと感じた。

以上。